

令和5年度 小田原市立 病院情報の公表

[医療法における病院等の広告規制について（厚生労働省）](#)

病院指標

- [年齢階級別退院患者数](#)
- [診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
- [初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数](#)
- [成人市中肺炎の重症度別患者数等](#)
- [脳梗塞の患者数等](#)
- [診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
- [その他（D I C、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）](#)

医療の質指標

- [リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率](#)
- [血液培養2セット実施率](#)
- [広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率](#)

年齢階級別退院患者数

[ファイルをダウンロード](#)

年齢区分	0~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~
患者数	1413	330	302	380	600	883	1223	2609	2206	574

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを年齢別に集計し表示しています。

«解説»

当院は県西地域の基幹病院として急性期医療や救急医療において中核的な役割を担い、幅広い年齢層の患者さんを診療しています。県内二次保健医療圏において、県西は高齢化の進んだ地域（小田原市は全人口の65歳以上の比率が30%の超高齢化地域）であり、退院患者数のうち60歳以上の患者さんが60%以上を占めています。また、当院は地域周産期母子医療センターの認定施設であり0~9歳の幼児・乳幼児の診療も多く、退院患者数の10%以上を占めています。前年度と比較し、50~79歳の患者が増加傾向にあります。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

□総合診療・感染症科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	10	40.90	20.60	40.00	85.10	
0400801499x012	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上） 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病あり	-	-	18.22	-	-	

	り A-DROP スコア2						
130160xxxxx0xx	後天性免疫不全症候群 手術・処置等2なし	-	-	19.48	-	-	-
050130xx9902xx	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり	-	-	23.74	-	-	-
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	-	-	13.52	-	-	-

ヒト免疫不全ウィルス感染症、後天性免疫不全症候群、熱帯感染症など特殊な専門分野を診療しています。それ以外は新型コロナウィルス感染症（中等症Ⅱ以上）、高齢者の誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全などの診療をしています。

□腎臓内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
110280xx991xxx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1あり	34	4.18	6.44	0.00	53.44	
110280xx9901xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり	23	11.65	13.81	13.04	72.30	
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	23	3.78	7.57	0.00	67.13	
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 手術・処置等2あり	14	40.71	34.07	7.14	75.29	
110280xx9900xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	-	-	11.49	-	-	

慢性腎臓病の患者さんが多く、上位を占めています。軽度の慢性腎臓病から末期腎不全まで、腎疾患全般に対応しています。血液透析または腹膜透析いずれの導入も可能で、血液透析導入後は、維持透析施設へ紹介します。シャント閉塞等に対し、経皮的血管拡張術、血栓除去術の実施が可能です。

□糖尿病内分泌内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
10007xxxxxx1xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）手術・処置等2あり	58	16.16	13.99	1.72	68.38	
100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	20	16.10	13.15	0.00	49.50	
10007xxxxxx0xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）手術・処置等2なし	-	-	10.66	-	-	
100210xxxxxxxx	低血糖症	-	-	6.80	-	-	

040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	-	-	20.60	-	-	
----------------	------------------------	---	---	-------	---	---	--

糖尿病疾患が上位を占めています。有病率が10人に1人と言われている2型糖尿病治療が主となっていますが、1型糖尿病治療や妊娠合併症例の治療も行っています。また、低血糖やケトアシドーシスなど糖尿病による合併症の症例も治療しています。

□呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等 2 なし	44	21.93	18.65	2.27	75.14	
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 2あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	42	2.79	2.98	0.00	71.24	
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	26	16.65	13.59	11.54	77.73	
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	22	18.41	20.60	13.64	84.95	
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病 なし	20	10.60	8.33	0.00	70.35	

肺がんが多く上位を占めています。肺がんに関しては、PET/CTを用いた病期診断が可能であり、呼吸器外科との連携も密接で手術も実施しています。主な治療は、化学療法、放射線治療を施行しています。

□消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔 膿瘍手術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷 病 なし	92	10.36	8.75	2.17	78.28	
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。） 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	55	3.84	2.61	0.00	72.31	
060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿 孔を伴わないもの） その他の手術あり 手術・ 処置等 2 なし	34	11.74	10.92	5.88	73.32	
06007xxx97x0xx	脾臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・ 処置等 2 なし	28	13.82	11.65	3.57	71.93	
060340xx03x01x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔 膿瘍手術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷 病 あり	28	20.50	16.81	0.00	85.43	

上下部消化管疾患及び胆道系結石、胆管炎、脾炎等に対する内視鏡治療を積極的に行っております。ほぼ全ての消化器全領域の疾患、消化管出血や急性脾炎、胆管・胆囊炎などの救急疾患にも迅速に対応できる体制を整えています。

□循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
050050xx9913xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 1あり 手術・処置等2 3あり	174	6.36	6.61	1.15	72.63	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1 なし、1,3あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	97	15.74	9.77	6.19	80.20	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1 なし、1,2あり 手術・処置等2 なし	85	5.38	4.26	1.18	72.14	
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	70	20.76	17.38	7.14	86.44	
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等2 なし	65	6.28	4.57	0.00	68.35	

狭心症が上位を占めています。虚血性心疾患に対しては緊急心臓カテーテル検査を行い、経皮的冠動脈拡張術、ステント留置術による血行再建を積極的に行ってています。また、高齢化に伴い心不全の患者さまが増えており、併発疾病に多く、急性期治療後は病状が安定した際には、療養型病院やリハビリテーション病院へ転院し治療を行っていただくこともあります。当院は救急専門医が常駐しており、連携をとりながら24時間体制で対応しています。

□小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(2500g以上) 手術なし 手術・処置等2なし	155	6.61	6.07	0.65	0.00	
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	144	5.01	5.96	0.69	1.99	
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等1 あり	140	1.00	2.12	0.00	3.99	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	122	5.57	6.37	0.00	3.48	
140010x299x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(1500g以上2500g未満) 手術なし 手術・処置等2なし	82	10.68	11.01	1.22	0.00	

西湖地区唯一の小児の入院ができる病院として、24時間体制で小児救急患者の受け入れを行っています。地域周産期母子医療センターの認定施設であり、新生児集中治療室（NICU）を6床併設し、早産児・低出生体重児をはじめ、新生児仮死、呼吸障害、新生児黄疸などの新生児疾患に対応しています。早産児の出産が多く、低出生体重児に関連する疾患が上位に入っています。また、食物アレルギーの負荷試験を積極的に行っており上位となっています。

□外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 バ ス
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	103	4.66	4.55	0.00	71.10	
060035xx010x0x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等手術・処置等 1 なし 定義副傷病 なし	59	15.32	15.12	3.39	74.32	
060330xx02xxxx	胆囊疾患（胆囊結石など） 腹腔鏡下胆囊摘出術等	51	5.94	5.98	0.00	59.78	
060335xx02000x	胆囊炎等 腹腔鏡下胆囊摘出術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	28	6.93	6.87	0.00	67.29	
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	24	8.50	8.95	25.00	65.58	

地域がん診療連携拠点病院に認定されており、日本外科学会・日本消化器外科学会・日本大腸肛門病学会の認定施設も取得しています。日本肝胆膵外科学会においてはA認定を受けており、高難度の手術が行うことができます。

県西地区の基幹病院として、幅広い疾患に対応できるよう体制を整えています。肝胆膵症例と結腸症例を中心にがんの進行度に応じた手術療法、抗がん剤治療も含めた手術後のケアを行い、がん治療における集学的治療を積極的に行ってています。また、鼠径ヘルニアや胆のう結石症も多く上位に入っています。

□整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用 バ ス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	208	29.95	25.50	63.94	81.53	
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 定義副傷病 なし	40	5.78	4.76	0.00	57.30	
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髓損傷を含む。） 手術なし	35	26.49	19.34	25.71	77.49	
070343xx99x1xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 手術・処置等 2 1あり	34	2.21	2.59	0.00	70.97	
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 膝縫合術等	31	13.10	13.04	0.00	31.29	

日本整形外科学会の認定研修施設となっています。救急科と連携し、重症多発外傷、一般外傷等を取り扱っているため、各部位の骨折など、外傷の患者さんが多くなっています。特に、股関節大腿近位骨折が最も多く、次に胸・腰部の骨折が多くなっています。また、変形関節症や脊柱管狭窄症、高齢化に伴って増加する運動器不安定症など慢性疾患やスポーツ障害に対しても様々な治療を行っています。

□形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数	平均 在院日数	転院率	平均年齢	患者 用 バ ス

			(自院)	(全国)			パス
020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等 2 なし	14	2.86	2.82	0.00	73.50	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部) 等 手術・処置等 1 なし	11	3.91	3.93	0.00	47.73	
160200xx02000x	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。） 鼻骨骨折整復固定術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	4.63	-	-	
100100xx97x1xx	糖尿病足病変 手術あり 手術・処置等 2 あり	-	-	47.07	-	-	
100100xx97x0xx	糖尿病足病変 手術あり 手術・処置等 2 なし	-	-	24.94	-	-	

眼瞼下垂が最上位となっています。眼瞼下垂は外来で手術を行うこともあります、抗血栓薬を内服されており術後の出血が懸念される場合や、遠方にお住まいの方などの場合には1泊2日の入院をお勧めすることができます。

□脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病 なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	31	15.35	15.70	19.35	69.06	
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	27	20.74	19.09	37.04	71.48	
010230xx99x30x	てんかん 手術なし 手術・処置等 2 3あり 定義副傷病 なし	21	12.38	13.15	14.29	68.24	
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	20	14.65	11.87	15.00	79.85	
010030xx9910xx	未破裂脳動脈瘤 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	18	4.22	2.95	0.00	56.17	

主に脳血管疾患、頭蓋内腫瘍、頭部外傷、水頭症などの機能的疾患に対して、顕微鏡やカテーテル、神経内視鏡などのさまざまな機器を駆使した外科治療を行っています。特に、急性主幹動脈閉塞症をはじめとする急性期脳梗塞に対しては、t-PA静注療法やカテーテルを用いた再開通治療に積極的に取り組んでいます。2022年度より新体制となり、患者さん一人ひとりに寄り添いながら安全で高度な医療を提供できるよう、スタッフ全員が一丸となって24時間365日体制で診療に臨んでいます。

□呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス

040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	31	5.68	9.89	0.00	70.65	
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 2あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	11	2.09	2.98	0.00	72.45	
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	9.17	-	-	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	9.54	-	-	
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	-	-	8.53	-	-	

呼吸器内科・呼吸器外科ともに肺がんを多く診ています。呼吸器外科では、手術療法を主とした肺がんの治療を行っています。10～30代のやせ形の男性に好発すると言われている気胸も多く診療しています。自然気胸・小型肺がん・転移性肺腫瘍・良性縦隔腫瘍などは、小さな手術創による胸腔鏡下手術を取り入れ、手術侵襲を軽減し早期社会復帰を目指しています。

□皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用バス
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	18	4.11	7.22	0.00	80.67	
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	-	-	9.29	-	-	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	-	-	12.88	-	-	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	-	-	3.93	-	-	
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） その他の手術あり 手術・処置等 1 なし	-	-	4.28	-	-	

皮膚の悪性腫瘍の患者さんが多く、最上位となっています。皮膚腫瘍症例が多く、高齢化社会に伴い増加傾向にあります。

□泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用バス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	206	3.03	2.44	0.00	71.41	
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 定義副傷病 なし	77	4.87	5.22	0.00	62.42	
110070xx03x20x	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 2あり 定義副傷病 なし	53	8.28	6.59	0.00	76.21	
110080xx99000x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	46	3.98	6.65	4.35	77.63	

11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病 なし	43	4.58	7.08	4.65	74.07
----------------	--------------------------	----	------	------	------	-------

前立腺生検の患者さんが多く最上位となっています。尿路結石の患者さんも多く、2018年よりレーザーを用いたfTUL（経尿道的尿路結石破碎）を重点的に施行しています。対象はESWL（体外衝撃波結石破碎術）による碎石が困難な尿路結石、サイズの大きな尿路結石に有効な治療です。

□産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	94	5.33	6.00	0.00	46.48	
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	92	5.26	5.93	0.00	44.93	
12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等2 なし	50	7.56	10.10	0.00	58.42	
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部（腔部）切除術等 手術・処置等2 なし	39	2.82	2.96	0.00	43.64	
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	35	5.11	7.89	0.00	73.83	

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設に認定された西湘地区の基幹中核病院です。救急も含め産科・婦人科全般にわたってあらゆる疾患に対応できるよう体制を整えています。婦人科疾患では子宮筋腫や、卵巣膿瘍などの良性疾患の治療が多くなっています。悪性腫瘍の治療も多く、病期や患者さんの状態に応じて手術療法、放射線療法、化学療法などを積極的に行ってています。産科医療では、新生児特定集中治療室（NICU）を併設し、地域周産期母子医療センター、神奈川県周産期救急医療システム基幹病院として認定されており、神奈川県下全域からの周産期救急を受け入れ、毎年多くの分娩を取り扱っています。

□眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	415	3.05	2.54	0.00	76.58	
020210xx99x1xx	網膜血管閉塞症 手術なし 手術・処置等2 あり	22	2.05	2.15	0.00	81.73	
020200xx99x1xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2 あり	13	2.00	2.09	0.00	80.31	
020180xx99x2xx	糖尿病性増殖性網膜症 手術なし 手術・処置等2 2あり	10	2.00	2.48	0.00	65.40	
020200xx9711xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等1あり 手術・処置等2 あり	-	-	4.61	-	-	

白内障が最も多く、当院では手術治療のみを行っています。その他に加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管に対する抗VEGF硝子体内注射治療（ルセンティス・アイリーア・ベオビュ等）を積極的に行っています。

□耳鼻咽喉科・頭頸部外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	88	7.15	6.02	0.00	53.59	
030428xxxxxxxx	突発性難聴	67	7.84	8.55	0.00	57.37	
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	48	7.44	7.53	0.00	24.81	
030390xx99xxxx	顔面神経障害 手術なし	45	8.67	8.71	0.00	54.27	
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	36	4.75	5.51	0.00	31.92	

慢性副鼻腔炎が最上位となっています。適切な早期治療と安静が必要なため入院治療を行います。突発性難聴、扁桃の疾患が多く上位となっています。扁桃の疾患は、ほとんどの患者さんで口蓋扁桃摘出術が行われています。また、言語障害においては言語聴覚士とも連携を取り、言語聴覚士による言語リハビリテーションを行っています。

□救急科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	66	4.62	8.38	7.58	60.17	
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	62	28.19	20.60	41.94	82.98	
161070xxxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	53	3.62	3.62	7.55	37.58	
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	43	11.47	13.52	20.93	79.37	
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	32	6.53	9.88	3.13	67.59	

県西二次医療圏唯一の三次救急医療機関として、救急センターを開設し高度急性期医療を担っています。各専門診療科と連携し、迅速で円滑な診療体制を構築しています。心肺停止や急性冠症候群、急性脳卒中などの救急疾患の対応、多発外傷や急性薬物中毒などの特殊な疾患の入院治療を中心に行っています。

転倒転落などによる外傷性の頭蓋・頭蓋内損傷は小児・高齢者に多く最上位となっています。高齢者に多い誤嚥性肺炎や尿路感染症、その他薬物中毒が上位に入っています。

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

[ファイルをダウンロード](#)

	初発					再発	病期分類基準(※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	27	11	18	11	-	-	1	8
大腸癌	34	53	40	32	16	28	1	8
乳癌	-	11	-	-	-	-	1	8
肺癌	22	-	24	35	21	18	1	8
肝癌	-	-	-	-	-	22	1	8

※ 1 : UICC TNM分類, 2 : 癌取扱い規約

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん）について、初発患者さんは病期分類別（ステージ別）、再発患者さんは期間内の患者数（延患者数）を集計しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

前年度と比較し、大腸がん、乳がんが多くなっています。各がん症例に手術、化学療法など集学的治療を行っています。外科手術では腹腔鏡・胸腔鏡手術を積極的に行い、QOLの向上につなげています。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

[ファイルをダウンロード](#)

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	11	9.82	55.18
中等症	89	15.48	77.42
重症	53	25.51	84.32
超重症	14	26.14	85.57
不明	-	-	-

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院へ入院された成人（18歳以上）の肺炎患者さんについて、重症度別に集計し表示しています。（市中肺炎とは普段の生活の中で罹患した肺炎を言います。）

«解説»

免疫力の低下している高齢者は重症化しやすく、在院日数も伸びています。

脳梗塞の患者数等

[ファイルをダウンロード](#)

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	166	26.37	76.95	41.81
その他	11	19.91	72.82	2.26

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された脳梗塞の患者さんを集計し表示しています。

«解説»

脳梗塞の多くは高齢者に発症しています。その多くが発症から3日以内に治療が開始されています。急性期の治療後には自宅ではなく、回復期病院などへの転院率が高くなります。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

□腎臓内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス

K61214	末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの 等	38	5.58	9.03	2.63	70.45
K635-3	連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	-	-	-	-	-
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術 初回 等	-	-	-	-	-
K6072	血管結紮術 その他のもの 等	-	-	-	-	-
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	-	-	-	-	-

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

末期腎不全等の血液透析導入に対する、シャント造設術が最上位となっています。次いで、腹膜透析導入に対するカテーテル腹腔内留置術が上位となります。

□消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	87	2.23	10.79	3.45	78.14	
K654	内視鏡的消化管止血術	42	1.69	14.17	4.76	73.86	
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）等	40	0.85	2.68	0.00	72.23	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）等	30	3.90	14.80	10.00	78.80	
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm以上）等	21	0.29	2.71	0.00	71.67	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

大腸ポリープや消化管の早期癌、胆膵悪性腫瘍、消化管出血に対する低侵襲な内視鏡治療の件数が多くなっています。

□循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの 等	79	2.76	3.18	2.53	71.52	
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの 等	52	1.35	4.21	0.00	70.42	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	39	0.03	21.67	10.26	72.74	
K597-2	ペースメーカー交換術	37	1.70	10.35	2.70	83.27	
K5972	ペースメーカー移植術 経靜脈電極の場合 等	37	5.24	11.81	5.41	77.92	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

狭心症などの虚血性心疾患が多く、冠動脈ステント留置術など内科的カテーテル治療を中心に行ってています。不整脈の患者さんが増加し、経皮的カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー移植術の件数も増加しています。

□外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆囊摘出術	83	1.86	4.14	1.20	63.17	
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	69	1.14	2.49	0.00	69.43	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	54	4.31	11.46	0.00	74.35	
K6335	ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	34	1.15	2.56	0.00	74.47	
K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術 低位前方切除術 等	24	7.04	22.17	4.17	70.50	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

疾患と手術件数はほぼ相関します。患者さんの状態に応じて低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行い、QOLの向上につなげています。

□整形外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用 パス
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿 等	161	3.84	22.09	52.17	79.53	
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股 等	88	5.52	23.19	63.64	78.78	
K0462	骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨 等	74	3.88	13.80	9.46	58.76	
K0821	人工関節置換術 肩、股、膝 等	53	2.45	20.94	9.43	72.47	
K0463	骨折観血的手術 鎖骨、膝蓋骨、手（舟状骨を除く。）、足、指（手、足）その他 等	40	2.43	9.20	2.50	53.25	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

骨折に対する観血的手術が多く、入院疾患と手術件数はほぼ相関します。股・膝関節症などの慢性疾患の手術も多く行っています。

□形成外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用 パス
K2191	眼瞼下垂症手術 眼瞼拳筋前転法	11	0.91	1.18	0.00	75.45	
K0064	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径12センチメートル以上 等	-	-	-	-	-	-

K0301	四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術（軀幹）等	-	-	-	-	-	-
K427	頸骨骨折観血的整復術	-	-	-	-	-	-
K0871	断端形成術（骨形成を要する）（指）等	-	-	-	-	-	-

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

眼瞼下垂手術を中心に行っております。手術は外来、入院いずれでも行っていますが、全身麻酔を要する手術は入院となります。

□脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用バス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	29	1.07	14.76	20.69	79.31	
K178-4	経皮的脳血栓回収術	23	0.26	33.65	69.57	76.26	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	17	3.12	17.24	5.88	68.53	
K1781	脳血管内手術 1箇所 等	14	1.00	23.07	28.57	65.93	
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング 1箇所	14	0.57	28.36	57.14	67.29	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

開頭手術・血管内カテーテル治療・神経内視鏡のいずれも行える体制を整えており、病気の特徴や患者さんのご希望に合わせて最適な治療法を提案します。手術は原則として最低限の剃毛のみで行い、脳や神経の正常な機能を最大限温存しながら、術後の整容面にもこだわった治療を心がけています。

□呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用バス
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）等	17	1.71	3.24	0.00	71.47	
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）等	14	1.00	3.36	0.00	69.64	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺囊胞手術（楔状部分切除））等	-	-	-	-	-	
K5132	胸腔鏡下肺切除術（部分切除）等	-	-	-	-	-	
K488-4	胸腔鏡下試験切除術	-	-	-	-	-	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、囊胞性肺疾患、気胸、膿胸及び胸部外傷など呼吸器外科領域の診療を行っています。小さな手術

創による低侵襲の胸腔鏡下手術を取り入れ、早期社会復帰と術後のQOLの向上につなげています。

□皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者 用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	19	0.95	2.11	0.00	80.16	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径3センチメートル以上6センチメートル未満	-	-	-	-	-	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径6センチメートル以上12センチメートル未満	-	-	-	-	-	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2センチメートル未満	-	-	-	-	-	
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	-	-	-	-	-	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

皮膚悪性腫瘍切除術が最も多く、小型であれば外来で手術可能です。大型の場合は大学病院やがんセンターでの治療をおすすめしています。

□泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K80361	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの 等	81	1.16	6.21	0.00	75.69	
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの 等	79	1.05	2.87	0.00	62.57	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	51	0.25	4.88	3.92	74.04	
K8411	経尿道的前立腺手術 電解質溶液利用のもの	25	1.20	5.40	0.00	73.28	
K843-2	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	18	1.00	8.83	0.00	70.61	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

前立腺針生検を除いた入院疾患では膀胱がんや腎・尿路結石が多く、疾患と手術件数は相関します。

□産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの 等	104	1.10	3.38	0.00	45.92	
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	99	1.00	3.73	0.00	47.76	

K867	子宮頸部（腔部）切除術	38	1.00	0.82	0.00	44.13	
K877	子宮全摘術	28	1.64	8.46	0.00	52.00	
K879	子宮悪性腫瘍手術	21	1.38	7.52	0.00	60.43	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

子宮筋腫や卵巣囊腫、子宮頸・体部がんに対する手術が多く上位となっています。当科では腹腔鏡・子宮鏡を用いた鏡視下手術を積極的に行いQOLの向上につなげています。

□眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K28210	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	407	1.00	1.05	0.00	76.44	
K28211	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 縫着レンズを挿入するもの	-	-	-	-	-	
K2822	水晶体再建術 眼内レンズを挿入しない場合	-	-	-	-	-	
K279	硝子体切除術	-	-	-	-	-	
K224	翼状片手術（弁の移植を要するもの）	-	-	-	-	-	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

«解説»

加齢性白内障に対する水晶体再建術が最も多く、疾患と手術件数は相関します。2.4mmの極小切開で惹起乱視が少なく回復の早い手術を行い、速やかに日常生活に復帰していただくことを目指しています。

□耳鼻咽喉科・頭頸部外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術ⅠⅡⅢ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）等	91	1.26	5.04	0.00	53.87	
K3772	口蓋扁桃手術 摘出 等	75	1.00	5.97	0.00	26.32	
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	19	0.53	3.95	0.00	39.74	
K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術（片葉のみ）等	16	1.00	4.69	0.00	53.44	
K347-5	内視鏡下鼻腔手術1型（下鼻甲介手術）	16	1.00	4.81	0.00	48.81	

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

«解説»

扁桃線疾患と慢性副鼻炎に対する手術が多く、入院疾患と手術件数は相関します。

その他（D I C、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

[ファイルをダウンロード](#)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	10	0.10
180010	敗血症	同一	42	0.40
		異なる	28	0.27
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	28	0.27
		異なる	-	-

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんのうち、播種性血管内凝固症候群（DIC）、敗血症、その他の真菌感染症、手術・処置等の合併症（透析シャント狭窄等を含む）について集計しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「入院契機（同一、異なる）」… 入院するきっかけとなった傷病名を「入院の契機となった傷病名」、主に治療した傷病名を「医療資源を最も投入した傷病名」といい、これら二つの傷病名が「同一」か「異なる」かに分けて集計しています。「同一」ならば、入院するきっかけとなった傷病を主に治療して退院したことになり、「異なる」ならば、入院後に他の傷病が治療の主となったことになります。

「発生率」… 全退院患者に対しての発生割合です（各傷病名の件数に対する割合ではありません）。

リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

[ファイルをダウンロード](#)

肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（分母）	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数（分子）	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率
1400	1351	96.50

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数を集計しています。

血液培養 2 セット実施率

[ファイルをダウンロード](#)

血液培養オーダー日数（分母）	血液培養オーダーが 1 日に 2 件以上ある日数（分子）	血液培養 2 セット実施率
2924	2415	82.59

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間に血液培養検査（日数）を患者さんのうち、血液培養検査が 1 日に 2 件以上実施された患者数を集計しています。

«解説»

血液培養検査は、採血した血液中に存在する菌を育て、検出する検査です。病原菌は血流中に常時存在するわけではなく、1セットの検

査では原因菌を検出できる確率（検出感度）が限られています。2セット以上行うことで、検出感度が上昇し、検査の精度が向上します。また、何らかの理由による検体の汚染を血液中の細菌類と勘違いしないようにすることもできます。

血液培養検査の目的は、菌血症を見逃さずに診断することです。検出した細菌を明らかにすることは、感染症の全体像を知る手がかりになるだけでなく、治療に有効な抗菌薬を選択するための検査に進めることができます。

広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

[ファイルをダウンロード](#)

広域スペクトルの抗菌薬が 処方された退院患者数（分母）	分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日 までの間に細菌培養同定検査が 実施された患者数（分子）	広域スペクトル抗菌薬使用時の 細菌培養実施率
914	784	85.78

«定義»

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間で広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者のうち、入院日から抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数を集計しています。

«解説»

不適切な抗菌薬の使用は、耐性菌の発生や蔓延の原因になることから、抗菌薬適正使用を推進する取り組みが求められます。抗菌薬の適正使用には、正確な微生物学的診断が重要です。そのため、抗菌薬投与前に適切な検体採取と培養検査を行う必要があります。

更新履歴

2024/9/30 2023年度 小田原市立病院 病院指標 公開